

渡島地協 「第5回・食と環境まつり」を開催

—晴天に恵まれ大盛況—

魅力ある道南食材の「地産・地消」と、食の安心・安全を見直す機会、更には地球温暖化をはじめとする環境問題を考えあう場として行われている『第5回・食と環境まつり』が10月4日(土)・函館市「緑の島」において盛大に開催された。

危ぶまれていた天候も予報を大きく覆し、早朝から秋晴れに恵まれ、絶好のイベント日和の中、8時過ぎに集まった実行委員等多くの関係者の手によって準備は着々と進められ、11時の開始直前には30にも及びテントと、来客を迎える体制も整い、いよいよイベントのスタート。



函館巴太鼓振興会Jrの勇壮な演奏で幕を切って落とされた「第5回・食と環境まつり」は長谷川実行委員長(食・みどり・水を守る道南地区労農市民会議議長、連合渡島地域協議会・副会長)が挨拶に立ち、世界における食の現状と支援体制、深刻化する環境問題を伝えるとともに、身近な所から見つめ直し、考えあうて行くことの重要性を訴えた。

いよいよ、各ブースの販売開始となったが、会場は既に組合員・家族・退職者のみならず、ポスターやチラシを見て訪れた多くの一般の人で賑わいを見せており、事務局の『開始!』の合図とともにそれぞれのブースに殺到。とりわけ、道南農民連盟ブースが行った朝取り野菜の格安販売や野菜の詰め放題は開始と共に黒山の人だかりになるほどの盛況ぶりを見せていた。

そのほかの数多く出揃った『食のブース』にも長蛇の列が出来るほど賑わいを見せていた。また、『環境ブース』も同様に多くの人が立ち寄り、木の葉を使った「万華鏡づくり」、木材で作った巨大「オセロゲーム」には親子連れが集まり、秋植球根や鉢植え販売、環境パネル展等々にも興味が注がれ、従前には見られないほど盛り上がりを見せていた。



今回の「第5回・食と環境まつり」には、道内連合各地域協議会からも参加があり、釧根地協は「仙鳳趾の牡蠣」を使った蒸し牡蠣販売、十勝地協は「水餃子」、留萌地協は燻製を使った「タコ飯」、胆振地協は「室蘭カレーラーメン」、檜山地協は「厚沢部産ポップコーン」等々、夫々の地域の特色を生かした販売をおこなったが、人気は上々で、後志地域協議会や連合北海道からの支援を受けて、積極的な売り込みで共に完売をした。



会場内には、巴太鼓振興会Jrの演奏に引き続き、函館東小学校金管バンドの演奏が行われ、会場内は更にヒートアップ。更には札幌からも、連合北海道・組織対策局 皆川次長を中心としたジャズバンドも参加し、会場内には常に生演奏が響き渡っていた。

イベント後半になると各ブースも売り込み必死。
汗だくになって商品を作ったり、何とか完売をしようと売りに徹して持ち歩き販売を行ったり、声をカラして呼び込みを行ったりと、それぞれが工夫を凝らして追い込みに入っていた。
時間の経過は早く、イベントの最後は、農民連盟や協賛して頂いた各農協から提供された「新米」の抽選会。



今年とれたての「新米」の小袋や2kg詰め、5kgが数多く準備されているとあって各来場者は期待感で胸が膨らみ、抽選のたびに歓声がわいたり、ため息が漏れたり和一喜一憂の状況に。最後の抽選が行われると飛び上がって受け取りに来る一方で、早々と出口に向かって歩き出すなど、様々な模様が描き出されていた。



連合が求める「地域に顔の見える連合運動」や「地域住民と共に創る地域活動」の一環としても位置付けられたこの取り組みは、5年目を迎えて定着の兆しが見え始め、今回は天候に恵まれたことも重なって最大の来客数となり、推定ではあるが800人から1000人近い来場者となったことは大きな成果として評価し合えると思われる。

また、各労組が出店するブースも組合員が積極的に参加し、役員と一体感をもって取り組んでいる模様は、労働組合の存在価値が希薄になってきている昨今の環境下においては、特効薬がないと言われている「組織強化」の一助を担っていると思われる。

5年という一つの節目を迎えている取り組みではあるが、今後、益々重要になる食の安心・安全と地球規模での課題でとなっている環境問題を真剣に考え、身近な所から確実に・着実に・そして堅実に運動を創り上げていかなければならないことを踏まえ、寄り一層の取り組みの拡大・充実を図っていかなければならないことを考えあいたい。

第5回・食と環境まつり

- ◎ 主催 食と環境まつり実行委員会 (食・みどり・水を守る道南地区労農市民会議)
- ◎ 協賛団体 ■ 連合北海道渡島地域協議会 ■ 連合北海道檜山地域協議会
■ 道南地区農民連盟 ■ 北海道労働者福祉協議会道南ブロック
■ (一社) 道南労働福祉会館
- ◎ 協賛 JA新はこだて JA今金 JA北檜山